

# TRAIN が育てたセンター職員

一橋大学 早川 毅

一橋大学に於ける情報ネットワーク環境の構築は本学に於ける「森社会工学学術奨学金」により1989年に実験的LANとして出発して、JUNETによる電子メールサービスを開始した。

1992年にJAINに接続して一橋大学として初めてIP接続による専用線を持った。同年7月に東京大学大型計算機センター主催の「地域ネットワークの課題」に本学職員が参加してTRAINの存在を正式に知ることとなり、TRAINの持つ情報を有効に活用するために学内環境の整備に着手した。1993年11月にTRAINに正式に加入した。特に、「学内に情報関係の学部、学科を持たない文系大学としてセンター職員への技術サポートが期待できること」、「ネットワーク運用の経験が豊富なこと」、「地域コミュニティへの参加」等が考慮された。

その後、接続回線速度の増強を計ったが、何分にも本学は都内では東京大学から遠隔の地にあり、また学内予算の確保の難しさもあって、他大学が1.5MGを確保している中で、512Kbpsを維持するのが精一杯であった。しかしTRAINに参加することによりセンター職員は研修等で着実に技術力を付け、またそれを通してヒューマンネットワークの重要性を学ぶことが出来たと思う。

時代の流れの帰結とは思いますが、この度TRAINは解散され、各自が独立してネットワークを運用していく事になったが、何らかの形で技術情報の共有化を計る為の組織を立ち上げる事が決められたことは今後の為にも良いことであった。

TRAINを通して多くのことを学んだ若い人々が各自の持ち場で益々活躍される事がTRAINの歴史をより輝かせる事になると信じている。